

令和八年度 入学式式辞

竹野川のせせらぎが心地よく響き、春爛漫のやわらかな光が大地を包み込むこの佳き日に、多くのご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜りましたこと、高壇からではありますが、心より感謝申し上げます。

こうして京丹後市立丹後中学校の入学式を挙行できますことは、私共教職員にとっても大きな喜びでございます。

さて、ただいま呼名いたしました二十八名の新入生の皆さん、入学おめでとうでございます。皆さんは今日、それぞれの小学校での学びを終え、この丹後中学校の門をくぐりました。在校生、並びに教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。

本校は開校して十三年目を迎えました。これまで、ここにいる在校生や多くの先輩たちが、学習や部活動、行事に本気で取り組み、素晴らしい歴史を刻んできました。本校には、長年受け継がれてきた「本気で高みに挑戦する」という誇り高い伝統があります。

今年度も、私たちは「本気でチャレンジ」を合言葉に歩んでいきます。

新入生の皆さんは新しい生活を前に、期待と不安が入り混じっている人もいるでしょう。そんな皆さんに、ベルギーの作家メーテルリンクの童話『青い鳥』の言葉を贈ります。

貧しい木こりの子、チルチルとミチルの兄妹は、幸せを運ぶ「青い鳥」を探して、過去の国や夜の世界、未来の国をさまよい歩きましたが、ついに見つけることはできませんでした。しかし、二人が夢から覚めたとき、ずっと自分たちのそばにいた我が家の鳩こそが「青い鳥」であったことに気づくのです。そしてこうつぶやくのです。「人間の求める幸せはここにあるのよ。幸せは自分の中にあるの」と。意外に気づかないですが、幸せは身近なところにあるのかもしれない。この物語は、「今、目の前にあることに全力を注ぐことこそが、幸せへの道である」ということを教えてくれている気がします。

これから始まる中学校生活において、「本気でチャレンジ」し、充実した毎日を送るために、特に意識してほしい「三つの柱」をお話しします。

第一に、「主体性——自ら学び、考える」ことです。あらゆる物事を他人事ではなく「自分事」として捉えてください。自ら問いを立て、考え、行動する姿勢が、皆さん自身を形作っていきます。自分が、自分を、自分で創り上げるのです。

第二に、「協働——多様な人とのコラボレーション」です。学校は、一人ではできないことを成し遂げる場所です。一人一人の個性や違いを認め合い、それぞれの考えを融合させることで、より良い解決策や新しい価値を生み出していきましょう。ここには頼もしいお手本となる先輩たちもいます。

第三に、「挑戦——失敗を恐れぬチャレンジ」です。失敗を恐れて何もしないことよりも、勇気を持って挑戦し、たとえ失敗してもそこから学び、立ち上がる経験を大切にしてください。私たち教職員やご家族は、皆さんのその挑戦を全力でサポートしていきます。

後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうでございます。今日のお子様の晴れ姿に、お喜びもひとしおのことと拝察いたします。今日から三年間、大切に育てられたお子様を、本校でお預かりいたします。

中学校生活の中で、お子様の成長に伴うご心配事も出てくるかもしれません。そのような時は、どんなに些細なことでも遠慮なく学校へご相談ください。お子様の健やかな成長は、学校とご家庭が固く手を取り合い、連携してこそ成し遂げられるものです。私たち教職員一同、皆様の

ご期待に応え、未来を生き抜く子どもたちの育成に全力を尽くす決意です。どうか、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新入生の皆さんの学校生活が充実し、一人一人が大きく羽ばたくことを願うとともに、本日ご臨席いただきました皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、式辞といたします。